



平成26年4月21日(月)
校長通心 No.23 校長 馬渡教二



美しく自分を染めあげてください(サウ ハロ-)

赤ちゃんときは白 誰でも白 どんな人でも白
からだや心が そだっていくのといっしょに
その白を 美しく染めていく 染めあげていく

毎朝目がさめたら きょうも一日
ウソのない生活を おくりたいと祈る
夜眠るときに ふりかえって
その通りだったら ありがとうとつぶやく

ひとにはやさしく 自分にはきびしく
これをつづけると 白はすばらしい色になる
ひとをいたわり 自分をきたえる
これが重なると 輝きのある色になる

何もかも忘れて ひとのために働く
汗はキモくよく蒸発し くたびれも よろこびとなる
こんな日の日暮れには 母の言葉が耳にすきとあり
父の顔が目の中で ゴムマリみたいに はずむ

生まれてきたからには よき方向へすすめ
からだや心を大きくするには よき道をえらべ
横道はごめんだ おことわりだ
いそがずに ちゃくちゃくと
自分で自分を
美しく より美しく 染めあげてください

文武両輪とそれを支える絆のシャフト＝将来多様な価値観の集団で「共生」していく力

各教室をまわってみると学年目標や学級目標が掲示されはじめた。前号でふれたとおり、目標があれば人はそれに向けての熱いエネルギーを出しつづけられるし、目標の達成にむけて毎日を勝負しようとするはず！市川中学校の今年の目標は「文武両輪とそれを支える絆のシャフトの取組で『共に成長しあえるコミュニケーション能力を身につけよう！』」と設定することになった。これは昨年度のアンケートや学校訪問してもらった人たちからの意見を参考に先生方がみんなにとって今、一番必要な力ではないか？と考えたからである。去年は「自分の考えを相手に正確に伝えよう」だったから、**互いに学び高め合う集団になるためにコミュニケーションしていくという進化した目標であり、まさに「絆のシャフト」づくりそのものであるといえると思う。**

みんなが将来「生きる力」(多様な価値観の集団の中で共生していく)をつけたり、3年後、自立(自分の進路を自分の責任で選択し、そのことに納得して次に進む)という目的を通過するためにも、「文武両輪」と「絆シャフト」は絶対に欠かせないものになると考えている。『文の車輪』は、知識・知恵・集中力・学力を養う部分であり、毎日の授業がその中心になっているけど、宿題や、人によっては塾なども含むと考えていい。ここで鍛えられる「集中力」とは、意識が対象に真っ直ぐに向かい気が散っていない状態であり、それは勉強することで一番鍛えられるものである。一方『武の車輪』は、人間関係のバランス感覚を養う部分で、行事や部活動が中心になっている。例えば、どれぐらい言い過ぎたらあいつは怒るのか？とか…仲良しとそれ以外との距離感…笑って許される範囲とそれを超える領域…仲間はずれの寂しさと一致団結して何かを成し遂げたときの喜び…などなど…。そして、両車輪をつなぐシャフトの部分がクラスでの学級づくりになる。ある意味、無目的に集められた各クラスのメンバーが集団づくりをし、誰もが居心地良い集団になっていくと、絆のシャフトは太くなっていくから両輪は安定し、多少の凸凹な道も乗り越えていける。絆のシャフトが細い集団は、困難という悪路になったとき両輪を回せなくなる。つまりは、文武の両輪を目的に向けて回していくためには、**異なる考え方をを持った他者と、どうやって関係を持ち、どうつながっていけばいいのか？ってことを磨いていかなければならぬそうだ。それには、コミュニケーションの力をつけ、相互に貢献し合う関係をどれだけつくっていきけるか？がカギを握っている。**だからこそ、本年度の目標**「文武両輪とそれを支える絆のシャフトの取組により、共に成長しあえるコミュニケーション能力を身につけよう！」**があるのだ！各クラスの各係活動や班活動、各行事への取組を経験しながら、個と集団の生活力や集団力をアップさせる力を養っていくことが絆のシャフトづくりといっている。

…こう考えていくと、中学校で毎日生活し、自分や集団を鍛えていくということは、「これから先の人生を生きる技術を磨く」と言っていると思う。だって、高校に行くためにだけ勉強するんだったら、5教科だけを塾のようにテストでレベルごとにクラス分けをしてそのレベルにあった反復効果の高い授業していけば向上していくのは当たり前のことだからだ。中学校のクラス集団は、レベルもまちまち、「体育」「音楽」「美術」「技術家庭科」という技能教科もあり、もしかしたらイジメがあったり、不登校傾向や発達障害傾向の子もいるかもしれない。みんなに気づいてほしいのは、**中学校の先生は、こんなに種々雑多に幅広く、教えるにくい集団に勉強を教え、人間関係のバランス力をつけさせようと、各行事にみんなと一緒に燃え、放課後は毎日部活動に付き添い、なおかつ太いシャフトをつくるべく、クラスで問題が発生したら相談にのったり…、解決のために一緒に悩んだり…、時には突き放したり…、場合によっては家庭訪問に出かけていってくれたり…**そのうえ、休日は無償のボランティアで部活動の面倒を見てくれている！！感謝！！である。……ということで、なぜ「勉強」も「家庭学習」も「行事」も「部活動」も一生懸命やらなければいけないかが何となくわかってもらえたんじゃないかな？つまり、「文の車輪」も「武の車輪」もどちらか一方だけが勢いよく回っても、円を描いてまたスタートに戻ってきてしまう。大切なのは両輪がバランスよく回転することと、太い絆シャフトをつくり、困難という凸凹道を乗り越え、3年後の自立という目的に真っ直ぐに突き進んでいくことなのである！！



